



大きく成長した小麦の刈り取り作業



参加した学生や生徒

参加している。大学生や地元の人たちとの交流は自分を成長させてくれる」とし、「学校の学びの実践の場になっている」と話す。また同高から東京農業大に進学した先輩は、「高校のころ、ここでの体験は楽しみだった。後輩にも受け継いでもらえて嬉しい」と語っていた。指導した竹内勝則さん（70・長久保）は「多くの学生が参加するとやりがいもあり、学生のいい笑顔がうれしい」と話す。町担当者は「今後、製粉してパンを作っていく。試行錯誤しながら、ここで活かせるものづくりにつなげたい」と伝えた。なお期間中はアスパラの立茎作業、長門バイパスの花壇整備、ブルーベリージャム作りや歩く寺子屋と和田宿での歴史学習も行う。

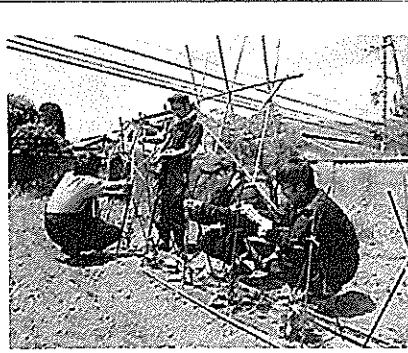


長和町で 「山村再生プロジェクト」 東京農大と丸子修学館高から参加

長和町は12、14日の3日間、長久保と長門、大門地区に和田宿で東京農業大学山村再生プロジェクトを実施。12日は東京農業大の学生18人に丸子修学館高校生7人の計25人が参加し、長久保地区芹沢圃場で昨年10月末に播いた小麦「夢かおり」の収穫作業を行った。

同大は年間を通じて長和町で農村実習活動をしており、今回は約40坪の圃場で麦を刈り取り、はぜかけを実施。強い陽射しのなか、ていねいに麦を刈り取っては楽しそうに作業した。

参加した丸子修学館高・農業課目の掛川翔太さん（3年）は「2年の時から



夏野菜を定植し支柱を立てる

今年から町の特産品開発として
食用ヒマワリの栽培がスタートす

東京農大生の挑戦 in 長和町 山村に活力を

る。遊休荒廃地の解消や景観の向
上といった相乗効果も狙いだ。

6月実習では、鷹山地区の復旧
した農地（約60㍎）と大門地区の
農地（50㍎）に協働で播種を行っ
た。選定種は「春りん蔵」。上質
な油ができるのが魅力で、効能的
にも他の油より体に良いとされる
ビタミンEが多く含まれているこ
とに着目した。今後は、苗の間引
きなど協働作業を予定している。
圃場作業では、草取りを主軸に

支柱立てやシシの植え付けを行っ
た。また、昔ならではの有機質肥
料作りにも挑戦。米ぬかやおから
といったチッ素が多い材料と、お
がくすや稲わらといった炭素が多
い材料を交互に、水を投与しなが
ら堆肥ヤードに積み込んだ。

参加した大学生は「今回の実習
は、僕たち1年生が多く参加しま
した。初めて機械を使ったり、肥
料を作ったり、現場について学び
ました。これから山村再生プロジ
ェクトに参加して、たくさんの方
とを吸収したいと思います」と話
す。



雨の中、ヒマワリを播種

町には「健康」をキーワードに
した「タツタンソバ」といった農
産物や、トレイルランといったイ
ベントが多くある。健康志向の現

在「健康II町づくり」を地域活性
化のひとつとして考案している。

東京農業大学国際食料情報学部
食料環境経済学科山村再生プロジ
ェクト事務局の望月さんは「山村
再生プロジェクトは始動してから
5年が経過しました。本年度は力
タチとホコリの構築を目標とし
て、活動しています。搾油用ヒマ
ワリの栽培といった新たな試みも
始まり、プロジェクトの質の向上
を目指していきたいと思います」
と話す。

（長和町役場産業振興課農政係
・尾美保）

特産品創出へ食用ヒマワリに挑戦